主体的・協働的に学ぶ英語授業の在り方
―「思考・発信型」の言語活動の工夫を通して―

国東市立安岐中学校教諭　栗林　裕之

はじめに

平成 27 年 12 月 21 日中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」では，これからの学校と地域の目指すべき連携・協働の姿として，「地域とともにある学校への転換」「子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築」「学校を核とした地域づくりの推進」を挙げ，社会総掛かりでの教育の実現を図ることの必要性が謳われている。また，平成 28 年 12 月 21 日中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では，「教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す『カリキュラム・マネジメント』の実現」「『主体的・対話的で深い学び』の実現」「育成を目指す資質・能力と小・中・高等学校を通じた領域別の目標の設定」の重要性が指摘されている。

現行の中学校学習指導要領解説外国語編では，「『聞くこと』,『読むこと』を通じて得た知識等について自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し，『話すこと』,『書くこと』を通じて発信することが可能となるよう，４技能の総合的な指導を通して，これらの４技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する」とされている。また，文部科学省平成 27 年度英語力調査（中学３年生対象）の結果分析では，「学習意欲に課題がある」「４技能がバランスよく育成されていない」「特に話す活動，書く活動が十分でない」ことなど，技能統合型の言語活動への取組に改善の余地があることが指摘されている。

大分県教育委員会では，平成 26 年 10 月に「大分県グローバル人材育成推進プラン」を策定した。同プランでは，本県におけるグローバル人材に必要なものは，５つの力【①挑戦意欲と責任感・使命感，②多様性を受け入れ協働する力，③大分県や日本への深い理解，④知識・教養に基づき，論理的に考え伝える力，⑤英語力（語学力）】の総合力であるとし，その素地を学校教育の中で培うことが必要であることが示されている。更に，英語力育成の具体的な取組として，平成 28 年３月に「大分県英語教育改善推進プラン」を策定し，英語を使って，自分を語り，ふるさとを語る，大分っ子の育成を目指している。

Ⅰ　実態と研究の方向性

１　地域・学校の課題

国東市では，過去 10 年の総人口の減少（平成 19 年度 34,241 名→平成 28 年度 29,381 名），児童生徒数の減少（平成 19 年度 2,622 名→平成 28 年度 1,797 名），それに伴った，市内教職員数の減少（平成 19 年度 309 名→平成 28 年度 207 名）という実態がある。

これら過疎化の進行に加え，家族形態の変容，価値観や生活様式の多様化，地域社会のつながりや支え合いの希薄化等による，地域社会の教育力の低下が指摘されている。人間関係を形成していく能力は，かつては家庭や地域の中で自然に身に付けられたが，今後習得が難しくなっていくと思われる。また，新しい時代の要請によってより必要とされるようになる基礎的な能力の一つでもあると言われている。この能力は，思考力・判断力・表現力とも密接に関係するものであり，その育成は重要な課題である。

このような状況を踏まえ，平成 27 年度くにさき地区（国東市・姫島村）教育研究会・教育課程研究協議会では，①教職員の大量退職・大量採用の時代を前に，授業の質の維持・向上を図るため，「チームくにさき」での組織的な授業改善が必要である，②当地区内の小・中学校において，基本的学習習慣と生活習慣の定着，学びに向かう集団づくり，思考力・判断力・表現力の育成が課題であり，学校・家庭・地域の連携・協働の具体化が求められる―と総括している。また，中学校外国語教育研究部会では，①実生活に関連した課題などを通じて動機付けを行うなど，生徒の学習意欲を真に高め，生徒の学びに向かう力を育成する指導方法を追究する必要がある，②平和・人権・国際理解・環境・福祉等のトピックを扱った教科書・資料等の更なる教材研究が必要である―と総括している。

本校は昨年度，「子どもの学びの習慣化―家庭との連携を通して―」の研究主題のもと，授業改善並びに連携・協働に関する研究を行った。生徒に困りや戸惑いを生じさせない指導の工夫・配慮を中心とした授業改善を，教科の壁を越え，学校組織全体で進める仕組みの構築とともに，生徒による授業評価の実施，特別活動の充実等による，生

徒と共によりよい授業を創造する「学びに向かう集団」づくりの推進を図った。生徒が目標をもって主体的に学習したり生活を改善したりしようとする「自己指導能力」を身に付けていくことが今後の課題である。

２　生徒の実態

平成 28 年度全国学力・学習状況調査〔生徒質問紙〕における国東市内中学校第３学年生徒の回答結果によると，「学校の授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思いますか。」の設問に対する肯定的回答の割合が全国平均の数値と比べて高く，「話すこと」「書くこと」に自信がないことがうかがえる。

また，生徒の現状を把握し，授業で実際に行う言語活動の在り方を探る基礎データとするため，本校の第３学年生徒 73 名を対象とした意識調査を平成 28 年７月に実施した。英語学習への意欲・言語活動の４技能に対する意識，学習中に守ってほしい学習規律，主体的に学習を進めるための技能，協働的に学習課題を解決するための技能の４つの設問内容を設定した。

その調査結果（一部）は以下のとおりである。数値は肯定的回答の割合である（「よくあてはまる」と「あてはまる」の合計）。

○ペアやグループで，友達と協力しながら学習している…90％
○先生の説明や友達の発言をよく聞き，その内容をすすんで理解しようとしている…86％
○授業の中で，友達のいろいろな考えを聞くのは楽しい…85％
○授業中，先生や友達が話す英語を，注意をはらって，聞き取っている…85％
○もっと英語の学習をしたいと思っている…78％
○英語の学習が好きである…75％
●英語を話すことは得意なほうである…38％
●英語を聞くことは得意なほうである…47％
●学校で使用する問題集や定期テストの問題を解くことには，ある程度自信がある…52％
●英語を書くことは得意なほうである…56％
●英語を読むことは得意なほうである…59％
●授業では，間違いを恐れず，先生や友達と，すすんで英語で話している…60％

４技能に対する意識の数値はいずれも低い結果となった。特に「聞くこと」と「話すこと」の音声言語に苦手意識がある。指導者が「基礎的・基本的事項の指導が最優先であり，その定着が不十分な中で，生徒の実践的なコミュニケーション能力の育成は成り立たない」といった考え方に留まり，４技能をバランスよく育成することや，複数の技能を有機的に関連付けた言語活動を組み込んだ授業実践が十分でなかったことに起因していると考えられる。

また，一方で否定的回答をした生徒は，もう一方でも否定的回答をしているなど，主体性と協働性には相関関係が見られた。英語の特質（語彙，連語，発音や語順の日本語との違いなど）に抵抗感を感じている生徒が多い。

３　研究の方向性

本研究は，「分かる授業づくり・発信する場づくり」を更に進め，「思考・発信型」の言語活動の充実を図ることにより，主体的・協働的に学ぶ英語授業の在り方を追究することを中心課題とする。そして，社会の中で生きて働く知識・技能の習得並びに表現力の向上を目指すこととした。研究仮説を，「英語授業において，地域の魅力を生かした教材や『生徒が使える』CAN-DO リストを取り入れ，２技能以上を統合的に活用した『思考・発信型』の言語活動を工夫することにより，生徒が主体的・協働的な学びを積み重ね，生徒の学習意欲や協働する力，表現力が向上するであろう。」とし，目指す生徒像を「目標をもって学ぶ習慣を身に付けることや，自己を見つめ，他との協働で自分の考えを修正し，自ら伸びようとすること，自他の考えや気持ちに気付き，その価値を互いに伝え合うことができる生徒」と設定した。

Ⅱ　研究内容

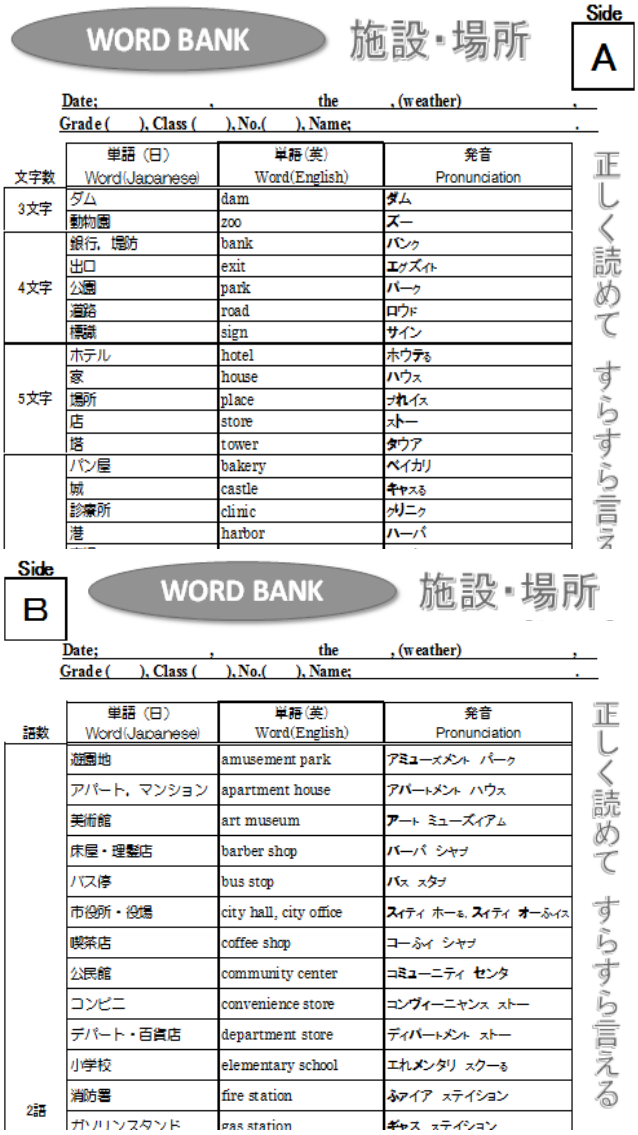
１　地域の魅力を生かした教材開発・単元設定

本校は昨年度からコミュニティ・スクールに指定されており，校内外のさまざまな場面で学校・家庭・地域の連携・協働が図られている。生徒たちは地域に愛着があり，地域についてのアンケートでは，食べる・泊まる・遊ぶ・体験・買う・観るなどに関する地域の魅力が数多く挙げられ，生徒が地域とよく触れ合えていることがうかがえる。生徒には「自分の住む地域の魅力を，自分の考えや思いを入れながら紹介する」「相手を意識して書いたり，話したりする」といったことが英語を使ってできるようになってほしい。そこで，地域の魅力を題材にして，生徒が言いたいこと・書きたいことを英語で表現・発表する言語活動を設定することとした。

題材に関連する語彙・表現を重点的に扱うことで，それ

らが言語材料として定着し身に付いていくことが期待できる。資料１の言葉の一覧表はいずれも，思考・判断・表現を助け，実社会や実生活につながる語彙である。作成にあたっては，ユニバーサルデザインの視点から，生徒自身が学習方法や内容を自己決定し授業でも家庭でも自律的に学べるように，文字数の少ない順にした上でアルファベット順で配列し，発音・アクセントを意識したカナ文字表記とし，ICT の活用と併せた帯活動や授業時間内で方法を体験した上での音読筆写により，これらの定着を図ることをねらった。なお，全学年の教科書で扱われているすべての形容詞の中から，その意味が「建設的な／前向きの／積極的な／行動力のある／能動的な」といった，いわゆる「ポジティブな評価」を表す語として抽出したものが「ポジティブ形容詞」である。

＜資料１―①＞　施設・場所を表す言葉の一覧表
※一部



WORD BANK　施設・場所　Side A

Date;　　,　　the　　, (weather)　　,
Grade (　　), Class (　　), No.(　　), Name;　　.

文字数	単語（日）Word(Japanese)	単語(英) Word(English)	発音 Pronunciation
3文字	ダム	dam	ダム
	動物園	zoo	ズー
4文字	銀行，場所	bank	バンク
	出口	exit	エグズィト
	公園	park	パーク
	道路	road	ロウド
	標識	sign	サイン
5文字	ホテル	hotel	ホウテる
	家	house	ハウス
	場所	place	プれイス
	店	store	ストー
	塔	tower	タウア
	パン屋	bakery	ベイカリ
	城	castle	キャスる
	診療所	clinic	クリニク
	港	harbor	ハーバ

正しく読めて　すらすら言える

WORD BANK　施設・場所　Side B

Date;　　,　　the　　, (weather)　　,
Grade (　　), Class (　　), No.(　　), Name;　　.

語数	単語（日）Word(Japanese)	単語(英) Word(English)	発音 Pronunciation
2語	遊園地	amusement park	アミューズメント　パーク
	アパート，マンション	apartment house	アパートメント　ハウス
	美術館	art museum	アート　ミューズィアム
	床屋・理髪店	barber shop	バーバ　シャプ
	バス停	bus stop	バス　スタプ
	市役所・役場	city hall, city office	スィティ　ホーる，スィティ　オーふィス
	喫茶店	coffee shop	コーふィ　シャプ
	公民館	community center	コミューニティ　センタ
	コンビニ	convenience store	コンヴィーニャンス　ストー
	デパート・百貨店	department store	ディパートメント　ストー
	小学校	elementary school	エれメンタリ　スクーる
	消防署	fire station	ふァイア　ステイション
	ガソリンスタンド	gas station	ギャス　ステイション

正しく読めて　すらすら言える

＜資料１―②＞　ポジティブ形容詞の一覧表

WORD BANK　つかえる！“ポジティブ形容詞”

Date;　　,　　the　　, (weather)　　,
Grade (　　), Class (　　), No.(　　), Name;　　.

正しく読んで，正しく書こう！

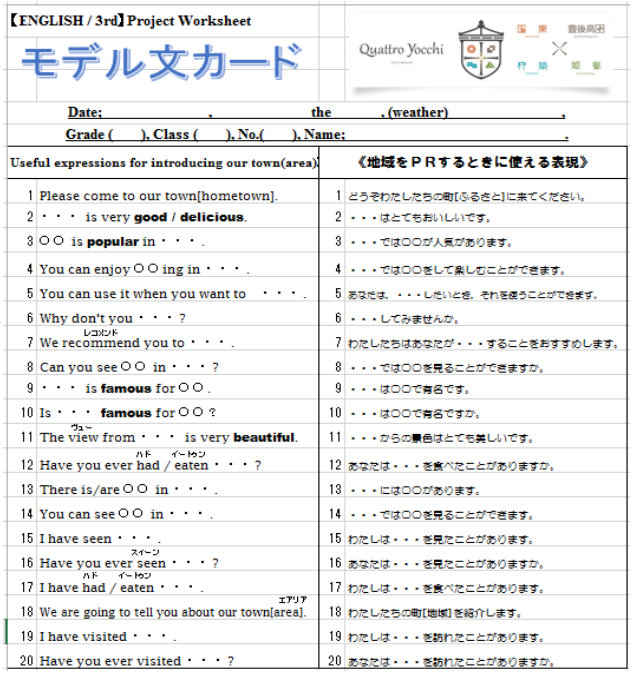
3文字	大きい	big	ビグ	A	B
	新しい	new	ニュー	A	B
4文字	かっこいい	cool	クーる	A	B
	かわいい	cute	キュート	A	B
	簡単な	easy	イーズィ	A	B
	元気な	fine	ふァイン	A	B
	～でいっぱいの	full [of~]	ふる[オヴ]	A	B
	うれしい	glad	グらド		B
	上手な，良い	good	グド	A	B
	高い	high	ハイ	A	B
	親切な	kind	カインド	A	B
	多くの(たくさんの)	many	メニ	A	B
	■の(たくさんの)	much	マッ	A	
	すてきな	nice	ナイス	A	B
	安全な	safe	セイふ	A	B
	体調がよい	well	ウェる		B
5文字	きれいな	clean	クリーン	A	B
	はっきりした	clear	クリア	A	B
	新鮮な	fresh	ふレッシュ	A	B
	すばらしい，大きい	great	グレイト	A	B
5文字	幸せな，楽しい	happy	ハピ	A	B
	大きい，広い	large	らーヂ	A	B
	正しい	right	ライト	A	B
	甘い	sweet	スウィート	A	B
6文字	明るい	bright	ブライト	A	B
	有名な	famous	ふェイマス	A	B
	かわいい	pretty	プリティ	A	B
	強い	strong	ストローンぐ	A	B
	役に立つ	useful	ユースふる	A	B
7文字	人気がある	popular	パピュら	A	B
	特別の，特殊の	special	スペシャる	A	B
8文字	わくわくする	exciting	イクサイティンぐ	A	B
	お気に入りの	favorite	ふェイヴァリト	A	
	可能な	possible	パスィブる	A	B
9文字	美しい	beautiful	ビューティふる	A	B
	おいしい	delicious	ディりシャス	A	B
	重要な，大切な	important	インポータント	A	B
	すばらしい	wonderful	ワンダふる	A	B
11文字	快適な，気持ちがよい	comfortable	カンふぉタブる	A	B
	おもしろい，興味深い	interesting	インタレスティンぐ	A	B

《形容詞の二つの用法》　名詞を修飾する単語が形容詞です。形容詞を使えるようになると，表現力がぐんとアップします。
A　名詞を直接修飾する用法 … 限定詞＋名詞　※名詞の前に置く
B　主語を説明する用法 … 主語＋be動詞＋形容詞　※be動詞とセットで

（例）There are good restaurants in Aki Town.
（例）The temple at the top of Mt Futago is very famous.

資料２のモデル文カードは，地域の魅力を発信するときに使える表現例をまとめたものである。生徒が言いたいこと・書きたいことを英語で表現・発表する上での，問題解決や創作表現の支援やヒントとなる，学習の手本・ひな形という位置付けである。地域の魅力を説明できることに留まらず，自らの体験や感情などと結び付けながら活用したり，相手を意識して表現したりできるように，疑問文や命令文，そして主語の例として I，We，You なども提示している。

＜資料２＞　モデル文カード



【ENGLISH / 3rd】Project Worksheet

モデル文カード

Quattro Yocchi　国東　豊後高田　杵築　姫島

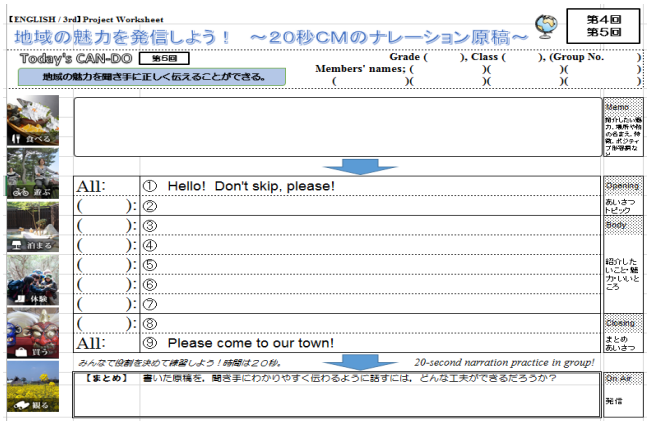
Date;　　,　　the　　, (weather)　　,
Grade (　　), Class (　　), No.(　　), Name;　　.

Useful expressions for introducing our town(area).	《地域をＰＲするときに使える表現》
1 Please come to our town[hometown].	1 どうぞわたしたちの町[ふるさと]に来てください。
2 ・・・ is very **good** / **delicious**.	2 ・・・はとてもおいしいです。
3 ○○ is **popular** in ・・・.	3 ・・・では○○が人気があります。
4 You can enjoy ○○ ing in ・・・.	4 ・・・では○○をして楽しむことができます。
5 You can use it when you want to ・・・.	5 あなたは，・・・したいとき，それを使うことができます。
6 Why don't you ・・・?	6 ・・・してみませんか。
7 We recommend (レコメンド) you to ・・・.	7 わたしたちはあなたが・・・することをおすすめします。
8 Can you see ○○ in ・・・?	8 ・・・では○○を見ることができますか。
9 ・・・ is **famous** for ○○.	9 ・・・は○○で有名です。
10 Is ・・・ **famous** for ○○?	10 ・・・は○○で有名ですか。
11 The view (ヴュー) from ・・・ is very **beautiful**.	11 ・・・からの景色はとても美しいです。
12 Have you ever had (ハド) / eaten (イートゥン) ・・・?	12 あなたは・・・を食べたことがありますか。
13 There is/are ○○ in ・・・.	13 ・・・には○○があります。
14 You can see ○○ in ・・・.	14 ・・・では○○を見ることができます。
15 I have seen ・・・.	15 わたしは・・・を見たことがあります。
16 Have you ever seen (スィーン) ・・・?	16 あなたは・・・を見たことがありますか。
17 I have had (ハド) / eaten (イートゥン) ・・・.	17 わたしは・・・を食べたことがあります。
18 We are going to tell you about our town[area](エリア).	18 わたしたちの町[地域]を紹介します。
19 I have visited ・・・.	19 わたしは・・・を訪れたことがあります。
20 Have you ever visited ・・・?	20 あなたは・・・を訪れたことがありますか。

資料３のワークシートは，「問いかけ→個人思考→ペアトーク→グループワーク」の授業展開のもと，既習事項を活用する表現活動を想定したものである。作成にあたっ

ては，問題解決や創作表現に必要な学習過程を自分で設定したり，必要な情報を収集したりすることなどの主体性の向上や，グループやクラスの友達のアイデアや意見をしっかりと聞き対話を通して思考や表現を練り上げたり，互いの共通点だけでなく相違点も認め多様な考えを生かし合ったりすることなどの協働性の向上をねらいとしている。また，表現力の向上を図る工夫として，「トピック選定→日本語メモ→英語メモ→英文作成」の４つのステップ，書く手順や典型的な文章構造の「見える化」などにより，効率的な原稿作成を促し，限られた時間の中で「話すこと」の活動にも時間をかけられるようにしている。

＜資料３＞　20 秒 CM のナレーション原稿作成・発表用のワークシート


【ENGLISH / 3rd】Project Worksheet
地域の魅力を発信しよう！　～20秒CMのナレーション原稿～
第4回 第5回
Today's CAN-DO 第5回　Grade (　), Class (　), (Group No.　)
地域の魅力を聞き手に正しく伝えることができる。　Members' names: (　)(　)(　)(　)
食べる / みる 遊ぶ / 泊まる / 体験 / 買う / 観る
All: ① Hello! Don't skip, please!
(　): ②
(　): ③
(　): ④
(　): ⑤
(　): ⑥
(　): ⑦
(　): ⑧
All: ⑨ Please come to our town!
Opening あいさつ トピック / Body 紹介したいこと・魅力いいところ / Closing まとめ あいさつ
みんなで役割を決めて練習しよう！時間は２０秒。　20-second narration practice in group!
【まとめ】 書いた原稿を，聞き手にわかりやすく伝わるように話すには，どんな工夫ができるだろうか？
On air 発信

単元のゴールを，言語材料の定着度を上げることと，地域を誇りに思う意識を高めることとする。生徒の全作品を，作品集の製本，学校行事での展示，学校ホームページでの公開，国東市観光協会への提供という形で発信する。地域の魅力を再認識させる教材は，生徒の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や表現力を育成する上で適切な教材になると考える。

２　「生徒が使える」CAN-DO リストの作成・活用

生徒は「英語ができる」「英語ができない」とよく言うが，生徒個々人によって英語力の実像はさまざまである。「分かる授業」づくりのためには，各単元・各単位時間での「めあて」「課題」の質的な向上が不可欠である。英語授業においては，生徒の主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を設定する上で，CAN-DO リストを効果的に活用する。

根岸ら（2016）は，CAN-DO リストを，「①【言語を用いて何ができるか（CAN-DO)】という観点に基づいて，②児童生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を，③４技能別に【～することができる】という形で設定し，④リスト化したもの」と定義付けしている。つまり，「生徒が使える」ことが CAN-DO リストの存在価値と言える。

投野（2016）は CAN-DO の効果的な活用法として，「①自己評価・②目標把握・③技能把握」の３つを挙げている。CAN-DO を見て，①自分のできることを確認し，今までやってきたこと，これからやるべきことを見通し，②文法や単語を学ぶだけでなく，それを身に付けたら何ができるのかというゴールを明確化し，③自分の欠けている技能，身に付けたい力をしっかりと知ることである。これらにより，自分の英語力をセルフチェックさせ，学ぶスキルを「見える化」し，自律的学習者を育てるということである。CAN-DO リストの作成にあたっては，生徒に分かりやすく具体的な姿が想像できるように，①Action（行動）：どういうことができるのか，②Condition（条件）：どのような

＜資料４＞　CAN-DO リスト３種　※いずれも一部，平成 28 年度版三省堂『NEW CROWN』CAN-DO リストをもとに作成

（単元順）

３年			
参照単元	Statement	技能	
L1-S	メモを見ながら，自分が好きなものやことばを紹介し，それらを好きな理由について簡単に発表することができる。	話すこと	発表
LT1	地図を見せながらであれば，道案内をすることができる。	話すこと	やりとり
L2-R	2つの事柄を説明する文章を読んで，それらの違いや共通点を理解することができる。	読むこと	要点理解
L2-W	自分の経験について，自己紹介カードを書くことができる。	書くこと	
LL1	（観光などで必要な）簡単な指示や説明を理解することができる。	聞くこと	要点理解

（技能別）

学年		１年	
技能		Statement	参照単元
話すこと	やりとり	自分の得意なことについて，短い会話をすることができる。	L7-S
		友人を外出に誘ったり，そこへの行き方を提案することができる。	LT6 LT8
話すこと	発表	絵や写真を見せながら，自分自身のことについて簡単に説明することができる。	L3
		メモを見ながら，短い自己紹介をすることができる。	P1
		自分の大切にしているものについて，準備をした上で，発表することができる。	P3

（Project 編）

	単元	Title	Statement	技能	
2年	P1	◇有名人を紹介しよう	調べたことをもとに書いたメモを見ながら，有名人を紹介する短い記事を書くことができる。	書くこと	
	P2	◎自分の夢を紹介しよう	メモを見ながら，自分の夢について，簡単な発表をすることができる。	話すこと	発表
	P3	☆自分の町を紹介しよう	メモを見ながら，自分の町や学校について，短く簡単な紹介文を書くことができる。	書くこと	

状況や場面で使うのか，③Criteria（基準）：どの程度できればよいのか，の３つの記述を明確に示すように留意する（資料４）。生徒が使える CAN-DO リストにするためには，生徒の実態に合わせて作る必要があり，今後も引き続き改善を加えていく予定である。

CAN-DO リストを活用した授業デザインでは，内容の理解→言語材料の定着→自己表現という指導の流れを計画する。単元末の自己表現活動として，ナレーションの原稿作成・発表を設定する。実際の授業では，CAN-DO リストに基づいた指導と評価の一体化を図るため，単元全体や毎単位時間の CAN-DO を授業の導入時に提示し，生徒と共有する。既習事項を復習・活用して定着を図りながらも，生徒自身が伸ばしたい技能を練習する時間を保障し，英語を多く使う機会を設定する。ワークシートやパフォーマンステストで，生徒自身による学びの軌跡の把握と学習意欲の向上を促し，単元を通してポートフォリオによる自己評価の時間を設定する。単元末では，授業で学んだことをどこまで達成できるようになったか，自分の学びの過程や積み重ねを，生徒自身が主体性・協働性の視点から振り返る（資料５，資料６）。

学習指導要領に基づき，目の前の生徒たちの現状を踏まえた具体的な目標の設定や指導の在り方は，学校や教員の裁量に基づく多様な創意工夫が前提とされているものの，CAN-DO リストを指導者相互で共有・活用することによって，生徒の学びの姿を想像しながら，指導者個人，校内教科部会，そして地区全体で意図的，計画的，組織的な授業改善が促進され，指導者にとっての利用価値もあると言える（資料７）。

＜資料５＞　振り返りシートの例「MY PORTFOLIO」

【ENGLISH / Project】
MY PORTFOLIO　Project② 地域の魅力を発信しよう

※CAN-DO を見て，自分のできることを確認し，今までやってきたこと，これからやることの見通しをつけましょう。

Day	Date	CAN-DO リスト	できる度チェック（１つ選んで○で囲む）
1	Mon. October 31st	観光などで必要な簡単な知ってる表現を理解することができる。	自力でできる(辞書などは使ってもOK)　先生や友達の助けを借りながらできる　自信がない
2	Tue. November 1st	地域の魅力について説明する文章を読んで，その要点をとらえることができる。	自力でできる(辞書などは使ってもOK)　先生や友達の助けを借りながらできる　自信がない
3	Wed. November 2nd	地域の魅力を２文以上で紹介することができる。	自力でできる(辞書などは使ってもOK)　先生や友達の助けを借りながらできる　自信がない
4	Fri. November 4th	地域の魅力が読み手にはっきりと伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。	自力でできる(辞書などは使ってもOK)　先生や友達の助けを借りながらできる　自信がない
5	Mon. November 7th	地域の魅力を読み手にはっきりと伝えることができる。	自力でできる(辞書などは使ってもOK)　先生や友達の助けを借りながらできる　自信がない

※下のキーワードを自由に使いながら，授業で感じたこと，気付いたこと，発見したこと，さらに学びたくなったことなどを日本語で書きましょう。
【キーワード】地域の魅力　紹介　自分の考え（思い）　伝える　意識　友達（他の人）　発表　発信　聞く　話す　読む　書く　表現　一など

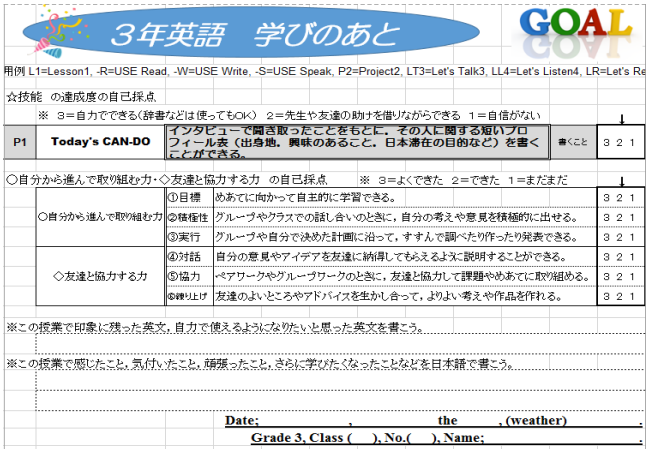
Day 1	
Day 2	
Day 3	
Day 4	
Day 5	

※最後の時間に，この単元全体を振り返りましょう。（１つ選んで○で囲む）

この単元の CAN-DO		自分の住む地域の魅力について，メモをもとに，まとまった紹介文を書いたり発表したりすることができる。	自力でできる(辞書などは使ってもOK)　先生や友達の助けを借りながらできる　自信がない
自分から進んで取り組む力	①目標	めあてに向かって自主的に学習できる。	よくできた　できた　まだまだ
	②積極性	グループやクラスでの話し合いの上に，自分の考えや意見を積極的に出せる。	よくできた　できた　まだまだ
	③実行	グループや自分で決めた計画に沿って，すすんで調べたり作ったり発表できる。	よくできた　できた　まだまだ
友達と協力する力	④対話	自分の意見やアイデアを友達に納得してもらえるように説明することができる。	よくできた　できた　まだまだ
	⑤協力	ペアワークやグループワークのときに，友達と協力して課題やめあてに取り組める。	よくできた　できた　まだまだ
	⑥練り上げ	友達のよいところやアドバイスを生かし合って，よりよい考えや作品を作れる。	よくできた　できた　まだまだ

Grade (　　), Class (　　), No. (　　), Name;

＜資料６＞　振り返りシートの例「学びのあと」


３年英語　学びのあと　GOAL

用例 L1=Lesson1, -R=USE Read, -W=USE Write, -S=USE Speak, P2=Project2, LT3=Let's Talk3, LL4=Let's Listen4, LR=Let's Re

☆技能　の達成度の自己採点

※　３＝自力でできる(辞書などは使ってもOK)　２＝先生や友達の助けを借りながらできる　１＝自信がない

P1	Today's CAN-DO	インタビューで聞き取ったことをもとに，その人に関する短いプロフィール表（出身地，興味のあること，日本滞在の目的など）を書くことができる。	書くこと	３ ２ １

○自分から進んで取り組む力・◇友達と協力する力　の自己採点　※　３＝よくできた　２＝できた　１＝まだまだ

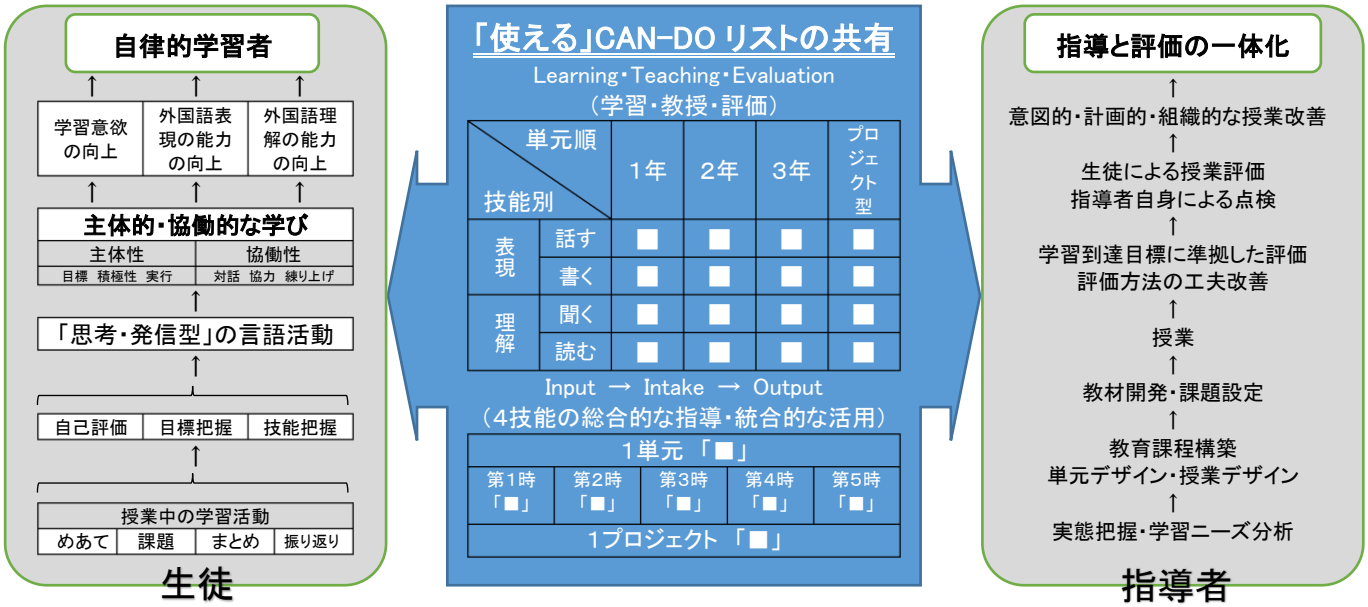
○自分から進んで取り組む力	①目標	めあてに向かって自主的に学習できる。	３ ２ １
	②積極性	グループやクラスでの話し合いのとき に，自分の考えや意見を積極的に出せる。	３ ２ １
	③実行	グループや自分で決めた計画に沿って，すすんで調べたり作ったり発表できる。	３ ２ １
◇友達と協力する力	④対話	自分の意見やアイデアを友達に納得してもらえるように説明することができる。	３ ２ １
	⑤協力	ペアワークやグループワークのときに，友達と協力して課題やめあてに取り組める。	３ ２ １
	⑥練り上げ	友達のよいところやアドバイスを生かし合って，よりよい考えや作品を作れる。	３ ２ １

※この授業で印象に残った英文，自力で使えるようになりたいと思った英文を書こう。

※この授業で感じたこと，気付いたこと，頑張ったこと，さらに学びたくなったことなどを日本語で書こう。

Date;　　,　　the　　,(weather)　　.
Grade 3, Class (　　), No.(　　), Name;　　.

＜資料７＞　CAN-DO リストの共有により期待される効果



Ⅲ　検証授業の実際と考察並びに生徒の変容

１　検証授業の概要

「地域の魅力を発信しよう」という単元を設定し，本校の第３学年２学級を対象に，全５時間で検証授業を行った。

本単元では，関係代名詞などの既習文法事項を定着させることと，それらを活用しながら複数の技能を統合的に使って課題解決ができることをねらいとした。

本単元を通してのCAN-DOは「自分の住む地域の魅力について，メモをもとにまとまった紹介文を書いたり発表したりすることができる」と設定した。

更に，Today’s Menuとして毎単位時間の授業の流れを板書に位置付けたり，使える学習モデル・ツールを複数時にわたって掲示したりするなど，生徒の思考を促し，生徒が思考の過程を整理し振り返ることができる板書の構造化に努めた。

２　検証授業の実際

第１時の主眼は「前置修飾・後置修飾の仕組みを，観光などで必要となる簡単な指示や説明を読み取ることを通して，理解することができる」と設定した。学習活動としては，本単元の見通しをもち，CAN-DOリストで身に付けるべき技能を理解し，写真と英文を組み合わせて「国東観光案内カード」を完成することに取り組んだ。生徒は，国東の魅力を伝える実際の写真に興味関心を示し，英文中のキーワードや重要表現をとらえながら指示や説明を理解することができていた。

第２時の主眼は「観光案内の文章を，意味のまとまりを意識して読むことを通して，その内容を理解し，要点をとらえることができる」と設定した。学習活動としては，意味のまとまりを意識した音読と読解に取り組み，自然な区切り方を体感するとともに文章の構成について理解を深め，要約文の空欄を埋めながら長い文章の概要をつかむことに取り組んだ。長文読解に対して苦手意識がある生徒から「文章の構造も意味内容も頭に入りやすくなった」「長くてもすらすらと読めるようになった」「長文の要点の理解が早くなった」といった反応があった。

第３時の主眼は「地域の魅力について，メモやモデル文を活用することを通して，相手に伝えることを意識した紹介文を作ることができる」と設定した。学習活動としては，地域についてのアンケートの結果とモデル文を参考に地域の魅力を紹介する英文を作り，ペアそしてグループで共有することに取り組んだ。「伝えたいことが書けるようになった」「伝えたい内容が相手に伝わった」「語彙・表現や文法をもっと身に付けたい」といった生徒の反応があった。

第４時の主眼は「地域の魅力について，友達と対話し，協力し，練り上げることを通して，相手に伝えることを意識した文章を作ることができる」と設定した。学習活動としては，グループ内で協力して地域の魅力を紹介するナレーション原稿を作り，グループ内での音読練習を通してよりよく伝わる伝え方を考えることに取り組んだ。生徒は役割を分担し，原稿作成や練習方法に工夫を凝らしていた。グループ全員が「地域の魅力を伝えたい」という思いをもち，学習した語彙・表現や前時の英作文を原稿に盛り込みながら作品を完成させた。

第５時（最終時）の主眼は「地域の魅力について，発表資料を英語で作成した上で，聞き手に分かりやすく伝える工夫をしながら発表することができる」と設定した。学習活動としては，グループ全員で協力して前時に作成した原稿を更に練り上げ，ALTの前で20秒CMのナレーションとして発表し，本単元の自分の学びを振り返りこれからの自分の英語学習について考えることに取り組んだ。終末には，「英語学習における主体性・協働性」に関する意識調査第２回を行った。設問は第１回（７月実施）と同一である。自分たちの力で完成させた英文をALTに理解してもらえたことや，ALTから作品や発表についてのアドバイスをもらったことで，コミュニケーションへの関心・意欲・態度が向上し，「伝えたいことが英語を使って表現できるようになった」という達成感を味わっている生徒の姿が見られた。

３　考察

(1) 成果

成果の１点目として挙げたいのが，学習意欲の向上が見られたことである。ポートフォリオは，生徒自身の学びの過程と成果そのものであり，それを周囲に伝えるための自己作品集でもある。生徒は，毎単位時間の終末にシート類をクリアファイルに保存し，MY PORTFOLIOへの記入を通して本時の振り返りをする。コメントによるフィードバックを行い，次時で使うシート類を挿入する。これを毎時継続して取り組んだことで，生徒が学びの積み重ねを感じていったと考えられる。毎時間の振り返りでは，用意されたキーワードを自由に使いながら，授業で感じたこと，気付いたこと，頑張ったこと，更に学びたくなった

ことなどを書くよう求めた。生徒の記述からは，地域の魅力を再発見したという気付き，「もっと知りたい」「知ったことを発信したい」「自分の言葉で伝えたい」など，主体的・協働的な学びや深い学びが実現した様子が見受けられた（資料８，資料９）。

＜資料８＞　毎単位時間の生徒の振り返り

時	生徒Aの記述	生徒Bの記述
1	わたしは長文問題が苦手なので，今日先生が言ったことをこれから意識して頑張ろうと思います。	自分で考えるだけではなく，友達の意見を聞くことで，考えが広がりました。
2	長文問題が苦手なわたしでもできたので少し自信がつきました。	長文読解は難しいけれど，チャンクで分かりやすかったです。
3	自分の知っている文法で地域のことを書けたのでうれしかったです。	単語やポジティブ形容詞がたくさん頭に入っているので，とてもすらすら書けて楽しかったです。
4	どうやったらみんなが注目してくれるかをよく考えて，班のみんなで活動できたのでよかったです。	同じ場所を紹介している友達が何人もいたので，多かった場所を書くことにしました。あと少しです！
5	自分で地域のことを調べて英語で書くということを初めてしたので，難しかったけれど，まだ自分の知らない地域のことが知れたのでよかったです。	ついに完成しました！みんなの考えが詰まった CM です。少しずつ重ねていったので，そんなに難しくありませんでした。

＜資料９＞　単元全時間を終えての生徒の振り返り

○5回の授業を通して感じたこと，気付いたこと，頑張ったこと，更に学びたくなったことなどを書きましょう。

・自分の書きたい英文を頑張って書くようにしました。分からないところは友達に聞いて協力することができました。

・班の学習やペア学習もあり，分からないところも自分から積極的に聞けるようになったし，友達の考え方もたくさん知れました。授業を通して更に国東のよさも知ることができました。

・文を班で作って，みんなで読むことは楽しかったです。自分とはちがった文法を使ったり，みんなで助け合ったりすることができたと思います。自分の住んでいる町のことを英語にすることができて，うれしいです。

・自分たちの住んでいる安岐町の魅力を発信しようという活動で，この活動をしたことで，安岐町がこんなに素晴らしいところなんだと感じました。だから，自分の住んでいる安岐町を自慢できるように，安岐町のことをもっと知りたいです。

・自分は，いろいろな施設・場所の単語が載っているプリント（WORD BANK）がとてもよかったです。表現の幅も広がるし，書けるものが増えたのがうれしかったです。国東の魅力も再発見することができました。

・自分たちで考えて，それを班で出し合って原稿にするのは難しかったけれど，20 秒で読めた瞬間はとてもうれしかったです。自分自身の自己表現が苦手だったけれど，今回はちゃんと意見を言うことができて本当によかったと思います。

・みんなの役に立てるように，進んで英文を考えることに頑張りました。知らなかった単語も覚えることができたのでよかったです。

・国東市の魅力を5時間で伝えられるようになるなんて無理だろうなと思っていたけれど，辞書やモデル文カードなどを使ったら 30 分くらいで1つの紹介が書けたのでびっくりした。

・この5回の授業を通して，英語を通じて国東のよいところ，食べ物，文化を知ることができたと思います。外国人の観光客を増やすために工夫できることを日ごろから考えていきたいです。

２点目は，英語学習への苦手意識の克服や今後の英語学習への決意が見られたことである。外国語表現の能力が以前より身に付いてきたことを実感している生徒，表現力を更に身に付けることでコミュニケーションへの関心・意欲・態度を高めていきたいという生徒，基礎・基本の定着や家庭学習の習慣化など，平素の英語学習を改善したいと決意を新たにしている生徒が多くいた（資料 10）。

＜資料 10＞　単元全時間を終えての生徒の振り返り

○今後の英語学習への決意や，今後英語でできるようになりたいことを書きましょう。

・まだまだ知らない単語などもたくさんあるので勉強していきたいです。外国の人と国の文化のことなどを一緒に話せるようになりたいです。

・恥ずかしがらずに話せるようになりたい。

・身近にある，目に入った英単語をすぐ読めるようになりたいです。

・今後の授業では自分から積極的に発表し，自分の力で英語を話せるようになれればいいと思う。

・僕は，もっと読む力がよくなればいいなと思っています。もっと，発音や明瞭さをよくしていくように努力していきたいです。

・自分の考えていることを，自由に英文にできるようになってみたいです。

・わたしはリスニングとライティングがまだ不十分なので，もっとたくさん英語にふれて，苦手をなくしていきたいです。

・今後は，会話の時に相手の話していることをしっかり聞き取れるようになって，自分の伝えたいことも伝えられる，コミュニケーション能力を強くしていきたいです。

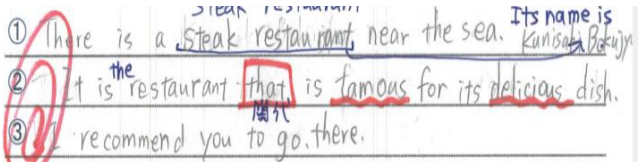
・まだ知らない単語がたくさんあるので，毎日 10 words 新しい単語を覚え，外国人の方とたくさん交流したいと思っています。

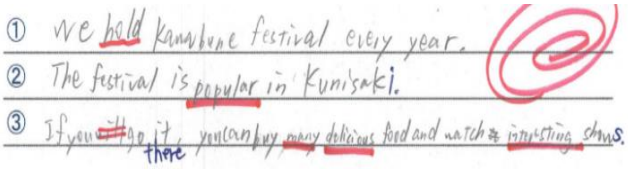
・ポジティブ形容詞など，相手や自分を明るくさせる言葉を使っていきたいです。

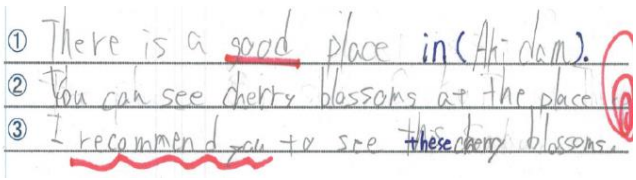
３点目は，生徒の言語活動がより自然になり，実践に近いものになり，文法中心でなく内容中心の言語活動になったことである。授業において，コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた，必然性のある言語活動を効果的に設計することの重要性を再認識した。検証授業期間後，生徒の全作品を受け取ってくださった国東市観光協会の職員の方々から，感想の手紙や英語によるアドバイスカードをいただいたことは，生徒へのフィードバックとしてありがたかった。

４点目は，語彙指導，語順指導等を加えながら，「１つの文を正確に書く活動」と「つながりのある複数の文で自分の考えを書く活動」を段階的に行うことにより，生徒自身が伸ばしたい技能を意識しながら，間違いを恐れず学習活動に取り組むことができるようになったことである（資料 11，資料 12）。

＜資料 11＞　３行英作文







＜資料 12＞　グループワークによるナレーション原稿

① Hello! Don't skip, please!	Opening あいさつ トピック
② Have you ever been to Baienno sato?	
③ The buffet menu of Baienno sato is very delicious.	Body 紹介したいこと・魅力・いいところ
④ There is a telescope and a planetarium there.	
⑤ You can see beautiful stars.	
⑥ Futagoji is famous for colored leaves.	
⑦ Many people visit there to see them every year.	
⑧ Baienno sato and Futagoji are very popular and places.	Closing まとめ あいさつ
⑨ Please come to our town!	

① Hello! Don't skip, please!	Opening あいさつ トピック
② First, there is an airport in Kunisaki.	
③ It is the only airport in Oita Prefecture.	Body 紹介したいこと・魅力・いいところ
④ You can warm your feet in hot spring called Ashiyu.	
⑤ It is near the entrance.	
⑥ Second, many festivals are held.	
⑦ Mitatezaiku, Kanabune festival and so on. They are great.	
⑧ So, Aki is a great town.	Closing まとめ あいさつ
⑨ Please come to our town!	

① Hello! Don't skip, please!	Opening あいさつ トピック
② We will tell you about Kunisaki area foods.	
③ There are many delicious foods in Kunisaki area.	Body 紹介したいこと・魅力・いいところ
④ One, It's Kurumaebi, shrimp from Kunisaki.	
⑤ And a pear is very delicious.	
⑥ Have you ever eaten these?	
⑦ You should eat these in Kunisaki. area.	
⑧ It is possible for you to come here	Closing まとめ あいさつ
⑨ Please come to our town!	

また，導入（Opening）→本体（Body）→結論（Closing）の文章構造を踏まえつつ，以下のような表現の工夫をしていた。

・読み手（聞き手）を惹き付ける Opening にする
・文頭に First/Second を置き順序立てて考えを述べる
・文頭に Because を置き根拠を示す
・ポジティブ形容詞を複数使って強調する
・for example/and so on を使って例を挙げる
・I，We，You などを使って提案したり自分の考えや体験と関連付けたりする
・文頭に So を置き結論を述べる
・一つの事柄について魅力をたくさん紹介する
・多くの事柄について一番の魅力を一つずつ紹介する

生徒の作品からは，観光客に地域の魅力やおすすめを紹介するには，そのものや場所の位置・名前・特徴を伝えると親切であり興味をもってくれること，名詞の前や be 動詞の後にポジティブ形容詞を置くと更に効果的であることなどの気付きが見られた。生徒たちの「伝えたい情報」に生徒たち自身がかなりの時間関わり，頭を悩ませ，工夫したかがよく分かる作品が完成した。

(2) 課題

知識・技能の更なる定着・発展につなげるためには，単元を通して言語材料を使いこなせるようになったかどうかを見取る（評価する）必要がある。本単元の場合，前置修飾・後置修飾の仕組みの定着度を，具体的にどの学習活動から見取るかということを明確に示していなかったため，生徒たちに修飾する言葉が使いこなせるようになったという実感があったかどうかをとらえられなかった。修飾する言葉を用いるべき言語材料として毎時間確認するべきだった。

学習形態については，本検証授業ではグループワークの際各学級６～７名の生活班を採用したが，人数が多くなるとどうしても主体的に関わろうとしない生徒が出てきた。当事者意識をより高めるための改善策としては，一班の人数は３～４人にする，ジャンルを一人一人の生徒に割り当てて紹介文を考えさせる，共通のおすすめスポットごとに集まるといったことが挙げられる。「より話しやすくなり，一人一人の意見が大事にされる」ことを保障したい。日常的に，単元（本時）のねらいの達成のために適した学習形態を取り入れることが必要である。

４　検証授業後の生徒の変容

(1) 達成度の自己評価並びに振り返り

毎単位時間の CAN-DO の達成度の自己評価，CAN-DO を効果的に活用することができたかどうかの振り返り，主体的・協働的な学びの振り返り，いずれも達成度が高かった。検証授業を通して，目標をもって自ら進んで取り組む力や習慣，友達と協力する力，自分の考えや気持ちを表現したり互いに伝え合ったりする力が身に付いてきたことがうかがえる（資料 13）。

＜資料 13＞　生徒による達成度の自己評価並びに振り返りの集計結果

本単元のCAN-DOリスト		達成度【満点3.0】	達成率
第1時	観光などで必要な簡単な指示や説明を理解することができる。	2.2	72%
第2時	地域の魅力について説明する文章を読んで，その要点をとらえることができる。	2.3	78%
第3時	地域の魅力を２文以上で紹介することができる。	2.3	78%
第4時	地域の魅力が読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。	2.2	72%
第5時	地域の魅力を聞き手に正しく伝えることができる。	2.3	77%
単元全体	自分の住む地域の魅力について，メモをもとに，まとまった紹介文を書いたり発表したりすることができる。	2.2	74%

設問 ◇CAN-DOを効果的に利用できたかを振り返りましょう。		達成度【満点4.0】	達成率
①自己評価	CAN-DOを見て，自分のできることを確認し，今までやってきたこと，これからやることの見通しをつけて学習することができるようになりましたか。	3.3	81%
②目標把握	CAN-DOを見て，文法や単語を学ぶだけでなく，それを身につけたら何ができるのか，というゴールを明確に知ることができるようになりましたか。	3.2	79%
③技能把握	CAN-DOを見て，「聞く」，「読む」，「やりとりする」，「発表する」，「書く」の5技能の中で自分の欠けている技能，つけたい力をしっかりと知ることができるようになりましたか。	3.4	85%

設問 ◇最後の時間に，この単元全体を振り返りましょう。（1つ選んで○で囲む → よくできた ・ できた ・ まだまだ ）		達成度【満点3.0】	達成率	達成度【満点9.0】
①目標	めあてに向かって自主的に学習できる。	2.4	81%	主体性
②積極性	グループやクラスでの話し合いのときに，自分の考えや意見を積極的に出せる。	2.4	81%	7.3
③実行	グループや自分で決めた計画に沿って，すすんで調べたり作ったり発表できる。	2.4	80%	81%
④対話	自分の意見やアイデアを友達に納得してもらえるように説明することができる。	2.2	73%	協働性
⑤協力	ペアワークやグループワークのときに，友達と協力して課題やめあてに取り組める。	2.5	83%	7.2
⑥練り上げ	友達のよいところやアドバイスを生かし合って，よりよい考えや作品を作れる。	2.5	84%	80%

(2) 第２回実態調査の結果（第１回結果との比較）

第１回と第２回双方の調査結果を資料 14 に示す。レーダーチャートのデータは，73 名を母数とする，肯定的回答の回答者数の推移を表している。設問内容Ａ群では多くの設問で増加した。とりわけ，第１回調査の全設問の中で最も少なかった「聞くこと」「話すこと」の回答者数が

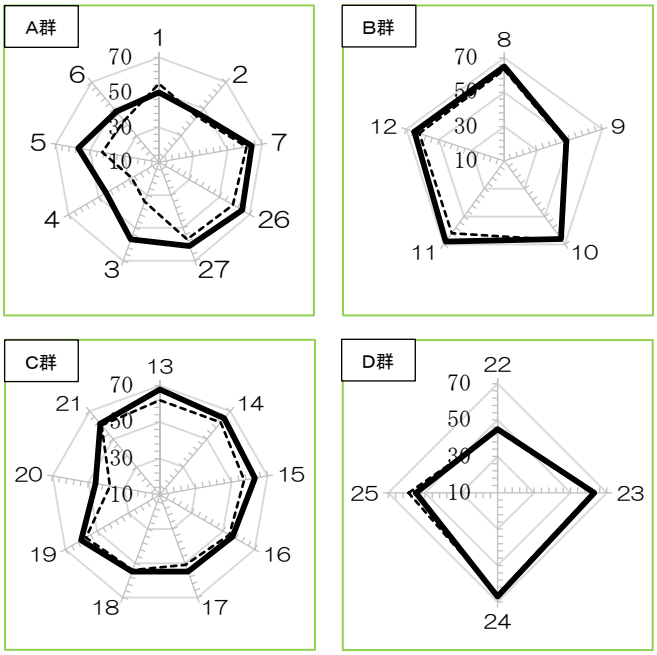
＜資料 14＞　実態調査の設問内容と結果の推移

○このアンケートは，これまでの自分の英語学習を振り返り，今後の自分の英語学習について考えるためのものです。自分の気持ちに最も近いものを選んで，数字で答えましょう。成績とは一切関係ありません。
《 ４＝よくあてはまる　３＝あてはまる
２＝あまりあてはまらない　１＝まったくあてはまらない 》

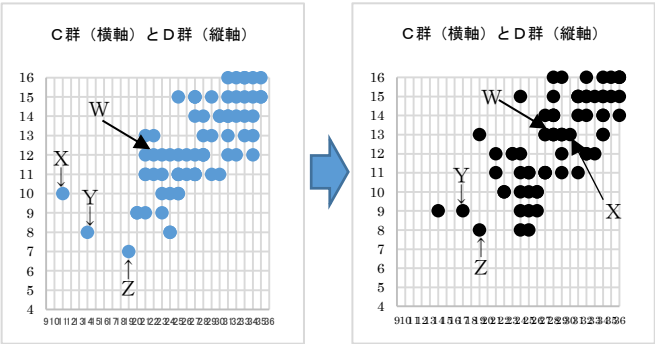
設問内容群	設問番号	設問	第1回7月	第2回11月
A 英語学習への意欲・言語活動の4技能に対する意識	1	あなたは，英語の学習が好きですか。	55	50
	2	将来，外国の人たちと英語で会話したり，英語のホームページを読んだり，英語でメールを書いて送信したいと思っていますか。	44	46
	7	海外のいろいろな国のことを，もっと知りたいと思っていますか。	61	64
	26	これまでの授業の全体をふり返って，自分としては熱心に英語学習に取り組んでいますか。	59	65
	27	あなたは，もっと英語の学習をしたいと思っていますか。	57	61
	3	英語を聞くことは得意なほうですか。	34	57
	4	英語を話すことは得意なほうですか。	28	45
	5	英語を読むことは得意なほうですか。	43	57
	6	英語を書くことは得意なほうですか。	41	48
B 学習中に守ってほしい学習規律	8	英語の授業のノートは，自分なりに工夫して書けていますか。	47	50
	9	先生の説明や友達の発言をよく聞き，その内容をすすんで理解しようとしていますか。	63	66
	10	教科書を使った学習に，積極的に取り組んでいますか。	63	65
	11	家庭で，英語の授業の予習や復習に取り組んでいますか。	47	48
	12	先生から出された宿題や課題をしていますか。	67	66
C 主体的に学習を進めるための技能	13	１時間の授業で学習すること（めあて）を毎回理解していますか。	62	68
	14	授業中，先生や友達が話す英語を，注意をはらって，聞き取っていますか。	62	65
	15	授業中，積極的に発音練習や音読をしていますか。	57	63
	16	ペアやグループでの活動のときに，自分の考えや意見を積極的に出せていますか。	54	56
	17	学んだ語句や表現を積極的に使って，自分の考えなどを英語で書こうとしていますか。	51	55
	18	知らない語句や表現があっても，自分で意味を推測するなどして理解しようとしていますか。	54	55
	19	どうしても思い出せない英語の語句や表現があれば，必要に応じて辞書などを使って調べるようにしていますか。	57	60
	20	学校で使用する問題集や定期テストの問題を解くことには，ある程度自信がありますか。	38	46
	21	１時間の授業で学習した大切なところ（まとめ）を理解していますか。	60	61
D 協働的に学習課題を解決するための技能	22	授業では，間違いを恐れず，先生や友達と，すすんで英語で話していますか。	44	45
	23	授業の中で，友達のいろいろな考えを聞くのは楽しいですか。	62	63
	24	ペアやグループで，友達と協力しながら学習していますか。	66	67
	25	分からないところや疑問点があったら，先生や友達にたずねていますか。	59	55

※データは肯定的回答の回答者数
（「よくあてはまる」＋「あてはまる」）

（<資料 14>のレーダーチャート）
※点線は第１回７月，実線は第２回 11 月



<資料 15>　クロス集計結果の推移
※左の図は第１回７月，右の図は第２回 11 月



大幅に増加した。４技能が次第に身に付いてきたととらえている生徒が多くなったことは注目に値する。

設問内容Ｃ・Ｄ群における肯定的回答の回答者数の増加は，まとめの作品づくりや発表の機会と場が設定されたことにより互いの頑張りを認め合えたこと，実践的コミュニケーションの場としての書くこと・話すことが実現したこと，自分が言いたいこと・書きたいことを英語で表現・発表することができたこと，つまり，「教室の雰囲気が支持的で，教室が安心して挑戦できる場である」と生徒が実感したことを示していると考えられる。

資料 15 の散布図のデータは，設問内容Ｃ群とＤ群における各回答者の回答の合計である。Ａ群とＢ群，Ｂ群とＣ群，Ｃ群とＤ群のいずれのクロス集計においても，概ね正の相関関係が見られる。また，推移としてはいずれも，全体的に少しずつより右肩寄りに上がっている。主体性と協働性は，互いに補完し合っていることがうかがえる。

Slow Learner である生徒W，Ｘ，Ｙ，Ｚの数値を追跡すると，いずれの集計でも複数の生徒に意識の向上が見られることが分かる。各生徒の振り返りシートの文面と併せてみるとそのことが裏付けられる。変容が大きくは見られなかった他の生徒については，その要因を注意深く見直したい。

Ⅳ　成果と課題

１　成果

(1)　地域の魅力を生かした教材開発・単元設定による生徒の変容

身近な題材を教材に取り入れる工夫として，国東市観光 PR 動画を本単元の導入時に視聴させたり，国東市観光ガイドブックを全生徒に１冊ずつ用意し，それを活用する家庭学習に取り組ませたりした。生徒はいわゆる「本物」の題材，「プロの技」に触れ，観光客や案内役の立場を擬似体験することにより，地域の魅力を再認識し，自分の住む地域をより誇りに思うようになったり，よりよく伝わる伝え方に気付いたりしていった。これらの工夫は，生徒にとって主体的・協働的な学びを促す契機となったと考える。

生徒は学びの過程において，英語の特質からくる難しさや，日本語でも英語でも感じる難しさ（方法が分からない，表現しにくい，どう工夫すれば相手に伝わるかなど）を感じる場面があったことが推測される。しかし，検証授業中の学習活動の観察，生徒の振り返りコメント，作品などからは，生徒一人一人の「できるようになりたい」「伝えたい」という学習意欲・表現意欲の向上，つまずきの軽減，表現の質の向上，表現の量の増加が見受けられた。２技能以上を統合的に活用することにより，創造性，多様性，発信力のある表現が多く生まれた。「相手意識」「目的意識」のあるメッセージの受信・発信となるような活動を仕組むことにより，学んだことを活用する表現活動が実現した。自分の住む地域の魅力という生徒に身近な題材の教材化により，充実感，自己有能感，一体感といった「手応え感覚」が生徒に生まれ，主体的・協働的な学びが実現したと言える。

(2)　「生徒が使える」CAN-DO リストの作成・活用による生徒の変容

CAN-DO リストを活用した授業において２技能以上を統合した言語活動の充実を図るため，指導者と生徒が学習到達目標を共有し，目標に対する自己評価を行うことが，生徒の学習意欲や英語学習の達成感を継続的に高める有効な手立てとなった。指導者が指導したい内容と生徒の学びたい内容が一致することで，「～ができるようになることを目指す」といった自覚が生徒に生まれ，自律的学習者として，進んで英語を学ぶ態度が身に付くとともに，英語を使って「～できるようになった」という達成感も得られていた。

指導と評価の一体化の観点から，CAN-DO リストとポートフォリオ評価を連動させたことも有効であったと考える。生徒にポートフォリオ作りの意義を説明し，ポートフォリオが役立つという実感がもてる機会を作ることで，生徒は自分のポートフォリオに愛着をもっていた。どのような作品があれば学習の様子が見えてくるか，またその作品をどのようにすれば残せるかを工夫することで，ポートフォリオに蓄積された資料から，生徒が学習を自律的に進めている様子や知識・技能の定着度が見えてきた。授業デザインの中で生徒自身による編集のための時間を確保しておくこと，一つの単元を通してポートフォリオを用いることも大切である。生徒に「自分がしたことの中で，一番いいなと思うところはどこ？」，「比べてみるとどんな違いに気付くかな？」といった問いかけをし，その上で，キーワードや論点を板書で整理したり，生徒相互にポートフォリオの見せ合いをさせたりすると更に効果的であろう。

２　課題

(1) 地域の魅力を生かした教材開発・単元設定について

地域の教育資源（人・もの・こと）の活用や「隠れたカリキュラム」（言語・美化・学習・生活環境，地域情報等）の実践にあたっては，教科間連携が効果的であり，外国語以外の教科でも生徒の思考力・判断力・表現力や主体性・協働性を伸ばす学習活動を設定することが可能である。そこでは，教科を超えた学びが成り立ち，生徒の思考が深まっていく。無理をして外国語科（一つの教科）で全て引き受けないで，他教科あるいは教科外の学習活動と連携していくことも大切である。その際外国語科（一つの教科）でできることは何かをよく考える必要がある。

また，生徒の実態や地域性に応じて，学年ごとの目標を適切に定め，３学年間を通して，英語を理解し，英語で表現できる実践的な運用能力を養うことの重要性を踏まえ，教科書本文の活用，主体性・協働性の向上をねらいとした学習モデル並びに表現力の向上をねらいとした学習ツールの開発・活用等，汎用性について考える必要がある。

(2) 「生徒が使える」CAN-DO リストの作成・活用について

「思考・発信型」の言語活動を工夫するにあたり，社会の中で生きて働く知識・技能はどの程度習得できるのかを追究し，見取る必要がある。生徒は評価規準を自覚しているか，評価規準は CAN-DO リストに合わせたものになっているか，評価の優先順位は明確になっているかなどを確認する必要がある。評価場面と評価方法を想定し，４技能それぞれの評価規準と判断基準，技能統合型の単元における評価規準と判断基準をCAN-DOリストと連動させることによって，より客観的に定着度を見取ることが重要である。

思考力・判断力・表現力の育成を掲げながらも，その進捗状況や伸びが明確にならないのは，「何を使って，どこまでできるとよいのか」という指導者の見解も統一されていないことも考えられるのではないだろうか。学習到達目標を作成するためには，生徒の「つまずきを減らす」ことと「内発的興味を引き出す」ことを念頭に置きながら，指導者が相互に単元観，生徒観，そして指導観を交流しなければならない。その作業は共通認識，共通理解という点で意義があると考える。

Ⅴ　今後の方向性

生徒たちが，身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び，自らの人生や社会をよりよく変えていくことができるという実感をもつことは，困難を乗り越え，未来に向けて進む希望と力を与えることにつながるものである。各教科等の教育内容を相互の関係でとらえ，学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと，そして，地域と学校の連携・協働，地域の教育資源の活用や社会教育との連携など，地域全体で未来を担う生徒たちの成長を支えていく活動を想定した教育課程を編成し，それを実施・評価し改善していくことが，生徒の主体的・協働的な学びを促す視点からも重要と考える。

また，CAN-DO リストを生徒も指導者もより効果的に活用するために，単元デザインや授業デザインの作成にあたっては，①全体目標を立てる（自分が授業を行うにあたって考えていくことを書く），②生徒にどのように変容してほしいかを技能別（領域別）に書く，③そのためには授業中（外）にどのような活動を行ったらいいのかを書く，

というように構想していくことが重要と考える。活動前・活動中・活動後の生徒のあるべき姿を想像しながら，社会の中で生きて働く知識・技能の定着を図るという視点から，CAN-DO リストを更に練り上げていきたい。

Ⅵ　還元計画

今後は，本研究の研究成果並びに以下の成果物を，校内研究会，くにさき地区教育研究会・教育課程研究協議会，くにさき地区中学校外国語教育研究部会，近隣小・中学校へ提示・提供することにより還元する予定である。

- 学んだことを活用する表現活動や複数の技能を統合的に使って課題解決に取り組む学習活動のポイントと具体例
- 地域の魅力を生かした教材活用のポイントと具体例
- 「英語を使って何ができるようになるか」を示した CAN-DO リスト（単元順・技能別・Project 編）
- 指導と評価の一体化を目指した，生徒が使える CAN-DO リストと関連付けたパフォーマンス評価・ポートフォリオ評価のポイントと具体例

また，くにさき地区中学校外国語教育研究部会では，本年度改訂の教科書の構成に基づいて研究チームを編成し，授業改善や教材開発に取り組んでいる。「思考・発信型」の言語活動の充実を図るため，その取組内容を共有し，主体的・協働的に学ぶ英語授業の在り方を部会員全員で更に追究したい。

おわりに

「暗記・再生型から思考・発信型へ」「一方的に指導者が教え込む一斉画一的授業から，考えをまとめ，話し合い，伝える授業へ」の授業の質的転換はすなわち，指導の発想の転換である。基礎から発展へという学習の順序性にこだわるのではなく，発展的な活動をする中で基礎の大切さに気付いて学んでいくといった柔軟性をもつ。言葉の伝える中身を大切にし，「何ができるようになるか」と「何について学ぶか」を意識した指導をする。実際の言語使用では，形式（単語，文法事項等）ではなく意味（内容）が先に来るのが自然な流れであるということを踏まえた上で言語活動の充実を図る。その必要性と重要性を，本研究を通してあらためて認識することができた。

身近な話題から社会や世界，他者との関わりの中で幅広い話題までを取り上げ，外国語で情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることが求められていくことから，長期にわたり継続して自律的に学ぶ力を養うことが大切である。まずは自分の得意分野，専門分野，話したい内容をもつことである。次に，自分の人生にとって，自分の仕事にとって，どのような英語が必要かを見極めることである。その上で，自分なりの英語学習の目的を設定し，自分にとって適切な学習方法を自分自身で見つけ出すことが効果的である。

生徒には，英語を学ぶ楽しさ，英語を使える喜び，英語が通じる喜びを味わってほしい。自律的学習者として，常に新たな出会いを求め，自らの進む道を切り拓いていってほしい。そして，主体的・協働的な学びを通して「対話の中で学び合い，考えを深め伝え合い，未来を見つめる若者」になっていってほしいと願っている。

＜引用・参考文献＞

中央教育審議会　新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）　平成 27 年

中央教育審議会　幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）　平成 28 年

文部科学省　中学校学習指導要領解説外国語編　平成 20 年

文部科学省　平成 27 年度英語教育改善のための英語力調査事業（中学校）報告書　平成 28 年

文部科学省　中学校学習指導要領　第２章第９節外国語　平成 20 年

根岸雅史・工藤洋路　「中学校英語　CAN-DO リスト作成のヒントと実践例」　三省堂　2016

投野由紀夫監修　「特集［授業改善を考える］　CAN-DO リストを活用した学習到達目標の設定と評価」　『英語情報 2016 春号』pp.4-7　公益財団法人日本英語検定協会　2016

和泉伸一　「思考力・判断力・表現力を育成する英語授業に向けて」『中等教育資料 2010 年 9 月号』pp.32-35　ぎょうせい 2010

髙木展郎・三浦修一・白井達夫　『「チーム学校」を創る』　三省堂　2015

『国東市観光ガイドブック「Kunisaki Way」　英語・韓国語・中国語版』（日本語併記）　国東市観光協会　2015

上山晋平　「授業が変わる！英語教師のためのアクティブ・ラーニングガイドブック」　明治図書　2016

田中博之　『アクティブ・ラーニング実践の手引き―各教科で取り組む「主体的・協働的な学び」』　教育開発研究所　2016

山本崇雄　『はじめてのアクティブ・ラーニング！英語授業』　学陽書房　2016